

鎌倉の高札（こうさつ） — 寺分村より

江戸時代から明治初めにかけて街道沿いの宿場（しゅくば）や村々の辻には「高札場」（こうさつば）が設けられ、庶民にたいして幕府や新政府の基本法令を示すため墨書した大きな木札が掲げられていました。

鎌倉市域にも江戸時代には三十七ヶ所の高札場があったようです。（『新編相模国風土記稿』より）

今回の展示では鎌倉市寺分（てらぶん）の旧家の蔵の中に百四十年余りも眠っていた六枚の「高札」をご覧ください。そのうちの五枚は慶応四年（一八六八）、明治新政府が王政復古の号令のもと最初に掲げた太政官布告「五榜の掲示」といわれるものです。保存状態がよく、墨の色もいまだに鮮やかです。

展示期間：2012年1月20日（金）

～3月28日（水）

展示場所：鎌倉市中央図書館

一階及び三階展示コーナー



「火付盗賊等取締触」明治3 庚午年



定 人たるもの五倫の道を正しくすべきこと……



定 何事によらず、よろしからざる事に大勢申し合わせ候を徒党と唱え…



定 切支丹宗門の儀は、是まで御制禁の通り…



覚 今般 王政ご一新に付き朝廷のご条理を追い…



覚 王政ご一新に付いては速やかに天下ご平定万民安堵に至り…天下浮浪の者これあり候にては相済まず…

お問合せは中央図書館近代史資料室 0467-25-2611 まで



藤沢宿大鋸橋脇の高札場